

「えん罪！JR浦和電車区事件を風化させず あたり前の労働運動を推し進める10・31集会」開催！



10月31日、コルソホール（浦和）において「えん罪！JR浦和電車区事件を風化させずあたり前の労働運動を推し進める10・31集会」を開催し、総勢190名の仲間が結集しました。

集会では、DVDの上映、美世志会によるリレートーク、参加者3名から感想を受けました。事件発生後に加入した仲間が増える中、この事件はあたり前の労働運動を推し進めるJR東労組の破壊であったこと、組織は壊れるどころか全組合員のたたかいで組織は強化されたことを確認しました。

美世志会リレートーク



美世志会の7名とリレートーク進行役の新保政治共闘部長（左から）齋藤秀一さん、大淵慶逸さん、上原潤一さん、山田知さん、新保政治共闘部長、梁次邦夫さん、ハツ田富男さん、小黒加久則さん

- ①Y君問題 ②11・1不当逮捕 ③不当逮捕後の取り調べ ④連帯のたたかい ⑤嶋田一味の犯罪性について ⑥第一審不当判決・不当懲戒解雇 ⑦会社の経営姿勢 ⑧事件発生以降にJR東労組に加入した仲間へのメッセージ

※リレートークの詳細は後日、資料を作成します

リレートークの感想

仙台地本：相場 大輔さん

事件後の入社で美世志会全員から話を聞くのは初めて。警察へ連れて行かれるのを見て身を投げ出して止めた仲間の行為は自分にできるか考えさせられた。取り調べの狙いは、自白調書の作成。警察の「弁護士を信用するな」と言うのが事件を物語っている。

千葉地本：柿栖 和也さん

事件後の入社。これまで事件の概要を調べたことはなかったが、今回に向けて学習してきた。埼玉県の管轄に警視庁がガサ入れ、自分は家族の動揺を見てしまったら耐えられないと思う。7名の人生は、えん罪によって苦しめられている。自分も弱さを出しながら今後も共にたたかう。

大宮地本：上唐湊 豊さん

事件発生当時、青年部長だった。Y君は分会集会で謝罪するも敵対する他労組からの吹き込みだった。仲間の信頼を裏切って自ら脱退、退職していった。

私自身も家庭訪問と家宅搜索をされ、無言電話などの不審な事象があり、自分も逮捕されるのではないかと思っていた。自分の弱さを出し合い、全組合員で多くの取り組みをつくり出してきた。会社の不当解雇、裁判官の繰り返される交代など、不当な動きが多くあった。

お互いに支え合っていこう！

鉄道ファミリー 小黒 加久則



鉄道ファミリーはお互いを支え合う位置付けで、美世志会を含む不当解雇された組合員の雇用場としても存在しています。

保険に関しては団体割引でお得であり、組合員に利益還元しています。「保険に加入しておけばよかった」と、後悔する組合員をつくらないことをめざしています。

全ての分会に訪問できませんが、相談はいつでも受け付けているので、連絡をお待ちしております。

組合員の雇用と利益を守るためにたたかおう！

主催者あいさつ（要旨） 加藤中央執行委員長

事件から23年、戦後80年を迎えて

えん罪・JR浦和電車区事件は、弁護団・後藤弁護士が「松川事件に勝つとも劣らぬ謀略・えん罪事件」と指摘したように、労働運動や平和を希求する活動を破壊する国策捜査・国策弾圧でした。その引き金となったのが、2001年12月に松崎明さんが発刊した『鬼の咆哮』です。

不当逮捕された美世志会7名は取り調べで「内側から壊せないから外から壊す」「労働組合が平和運動なんて生意気だ」と言われました。私たちは、面会・差し入れ、公判傍聴、署名、全国キャラバン、最高裁要請、家族会支援、街宣、ビラ配布など、23年間にわたり仲間と共にたたかい続けてきました。支援・連帯いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

反弾圧のたたかいを風化させないために

担い手が減り、風化の危機があります。たたかいを語るには

自分の言葉で語り、美世志会の話を直接聞くことが重要です。改めて8・30集会などを地本や支部でも取り組み、美世志会の苦闘と自分の転換点を振り返り、何を実践してきたかを捉えて互いに学び合ってほしいのです。

戦争国家化を打ち破るために

10月、高市首相はトランプ大統領と「日米同盟の黄金時代」を語り、防衛力強化を約束しました。背景には、2014年の集団的自衛権容認、安保法成立、防衛政策の変質があります。敵基地攻撃能力の保有、長距離ミサイル整備、防衛費倍増、戦艦輸出解禁、南西諸島のミサイル基地化など、日本は戦争体制へと進んでいます。労働組合の立場から、この流れをどう打ち破るかが問われています。

ウクライナ避難民支援カンパ

2022年、ロシアの侵攻を受け、JR総連は「ウクライナ

避難民への支援カンパ」を実施しました。

私も現地に出向き、改めて世の中の体制に流されず、抵抗とヒューマニズムの精神を養い、実践することの重要性を学んできました。間違っても戦争に加担する労働組合にはなりません。

美世志会と共に、これからも全力で

松川・下山・三鷹の三大フレームアップ事件の狙いは、共産党や労働組合の破壊を通じた国鉄の合理化でした。現在もビラ配布での逮捕やストライキの犯罪視など、私たちは攻撃に直面しています。美世志会は事実をねじ曲げクビを切られました。Aさんの問題も被害者を加害者にして、懲戒処分を発令したことも同じではないでしょうか。そのような会社の傲慢な姿勢は許せません。だからこそ、23年間のたたかいを再確認し、組合員の雇用と利益を守り、不当解雇された美世志会と共にたたかい続ける決意です。